【経済学会懸賞論文執筆マニュアル】

2020年7月

甲南大学経済学会

Ⅰ　論文の要件

（1）原則、パソコンの文書作成ソフトで作成する。

（2）A4用紙、横書き（縦置き）、40字×36行/頁。

（3）分量は12頁以上20頁以下（題目・目次・図表・アンケート票等の付録類を含む）。

（4）日本語は明朝（全角）、英数字は、Century（半角）、共に10.5ポイントのフォントを

用いること。

（5）論文は未発表作で、一人一作（共著の場合も含む）。

（6）英語論文の場合も上記と同様の形式。（ただし、ダブル・スペースとする）

Ⅱ表紙

（1）表紙に記載することは

（a）題目

（b）目次（章のみ）

（2）審査は匿名で行うので、氏名・ゼミ名・学年は、表紙及び本文には記載せず、別紙に記入して添付すること。

Ⅲ章・節などのナンバリング

（1）ナンバリングは以下に従うこと。

（a）ローマ数字　[Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、……]

（b）算用数字　[（1）、（2）、（3）、……]

（c）ローマ字　[（a）、（b）、（c）、……]

（例）Ⅰ　変動相場制下の経営収支均衡と国際資本移動

（1）1970年代の経常収支不均衡と国際資本移動

（a）1970年代の経常収支不均衡

Ⅳ脚注ならびに引用

（1）脚注の付け方

（a）文章の右上に数字を振り、論文の最後に全てまとめ「文末脚注」とする。

（例）問題は、市外社会から市内社会に支払われるアクセスチャージによって解消している1。

（b）脚注の数字の付け方は、算用数字1、2、3……に統一し、（注1）、（注2）、（注3）……等としない。

（2）引用の仕方

（a）文献から文章等を引用する場合には必ず「　」を付け、著者名・文献名・ 出版社・出版年・掲載頁数等を脚注等で必ず明記すること。文献を要約して引用する場合も同様とする。

（b）外国語文献の著者名は、第一者のみ「ファミリーネーム,ファーストネームのイニシャル」の順で記載し、第二者以降は通常にすること。また、英文著作名、英文雑誌名は原則として斜体（イタリック体）とする。

（3）引用した文献の記載の仕方

（a）書籍の場合

著者名『書籍名』（出版社名、刊行年（西暦）、頁）

（例）宮島洋『税のしくみ』（岩波書店、1992年、32頁）

（b）雑誌に掲載された論文の場合

著者名「論文名」（『雑誌名』、巻・号、頁）

（例）宮尾尊弘「価格破壊は日本を救うか」（『エコノミスト』、第72巻32号、30頁）

（c）書籍に収録された論文の場合

著者名「論文名」（書籍の編者名・『書籍名』、出版社名、刊行年（西暦）、頁）

（例）上島康弘「第3章 格差社会を生むもの」（広田照幸・川西琢也編、『こんなに役立つ数学入門－高校数学で解く社会問題』、2007年、81頁）

（d）Webページの場合

著者名「タイトル」（URL、公表年月（西暦）最終閲覧日）

（例）青木浩治「国際経済学」（http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/gakkai/index.html、2010年7月）

 最終閲覧日〇年〇月〇日

Ⅴ　参考文献

（1）論文作成のために使用した文献は「参考文献」とする。「参考文献」は、論文・文末脚注の後にまとめる。

（2）記載の仕方

（a）書籍の場合

著者名『書籍名』（出版社名、刊行年（西暦））

（例）宮島洋『税のしくみ』（岩波書店、1992年）

（b）雑誌に掲載された論文の場合

著者名「論文名」（『雑誌名』、巻・号、刊行年日）

（例）宮尾尊弘「価格破壊は日本を救うか」（『エコノミスト』、第72巻32号、1994年）

（c）書籍に収録された論文の場合

著者名「論文名」（書籍の編者名・『書籍名』、出版社名、刊行年（西暦））

（例）上島康弘「第3章 格差社会を生むもの」（広田照幸・川西琢也編『こんなに役立つ数学入門－高校数学で解く社会問題』、筑摩書房、2007年）

（d）Webページの場合

著者名「タイトル」（URL、公表年月（西暦））

（例）青木浩治「国際経済学」（http://www.eco.konan-u.ac.jp/home/gakkai/index.html、2010年7月）

Ⅵ図・表の記載

（1）出典を必ず明記すること（製本の際、原典を印刷するため）。

（2）必ず通し番号を付けること（表1、表2、図1、図2等）。

Ⅷ　提出方法

原稿の電子ファイルを添付したメールを経済学会コモンルーム（gakkai@konan-u.ac.jp）宛に送信すること。